

2014年10月30日
株式会社オンワードホールディングス
広報部

～あなたのまごころが、あのひとの希望をつなぐ～
**オンワードの回収衣料から生産したリサイクル毛布 4,000 枚を
ミャンマー連邦共和国へ 10月23日に寄贈**

株式会社オンワードホールディングス(本社:東京都中央区 代表取締役会長兼社長:廣内 武)は、環境・社会貢献活動の一環として、当社の回収衣料から作ったリサイクル毛布 4,000 枚を、日本赤十字社の協力のもと、東南アジアの最貧国であるミャンマー連邦共和国の生活困窮者や特別支援学校、孤児院で生活する子供たちを中心に10月23日(木)に寄贈しました。

当社では、“この地球^{ほし}を想う。この服をまとう。”をコンセプトに、経営の重点施策の一つとして、環境経営を推進しています。その一環として、ご愛用いただいた当社の衣料品をお引き取りし、回収衣料を可能な限りリユース・リサイクルすることで、衣料品循環システムの構築を目指す「オンワード・グリーン・キャンペーン」を実施しています。さらに、回収した衣料の一部からリサイクル毛布などを生産し、日本赤十字社を通じて世界の被災地や復興中の地域へ支援のために寄贈しています。

7回目の寄贈先であるミャンマー連邦共和国は、2012年に米国が経済・金融制裁を解除し、2013年にEUが経済制裁の解除を決定したことで、多くの外国企業が進出しやすい環境になりました。また、消費市場の観点から「アジア最後のフロンティア」、製造拠点の観点からは「チャイナ・プラス・ワン」と呼ばれており、地理的にも大規模市場である中国、インドと隣接していることから重要拠点になると見られ、今後も日本企業の進出が続くと考えられます。しかし、経済的な注目が集まる一方で、いまだに後発開発途上国(最貧国)に分類されており、最低限の暮らしをしている生活困窮者の方々も多く、日本と比較すると5歳未満児の死亡数は約15倍、妊産婦は約30倍と、多くの人々が命を落としている現状があります。

今回の寄贈は、皆様からお引き取りした衣料から作った毛布 4,000 枚を、ミャンマー赤十字社が支援している生活困窮者や特別支援学校、孤児院で生活する子供たちに配布(詳細は資料を参照)しました。生活改善のための敷物や掛物として活用していただく予定です。

なお、今秋の引き取りキャンペーンは、全国主要百貨店 23 店舗で9月19日から11月12日(期間は店舗によって異なります)まで実施し、約3万人のお客様から約16万点の衣料をお引き取りできる見通しです。この回収衣料の一部から新たにリサイクル毛布を作り、日本赤十字社の協力のもと、世界の被災地や復興中の地域への支援のために活用していく予定です。

ーリサイクル毛布寄贈実績ー

第1回 2010年5月	バングラデシュ	3,000枚	第5回 2012年9月	モンゴル	2,000枚
第2回 2011年2月	カザフスタン	3,300枚	第6回 2013年10月	ネパール	4,000枚
第3回 2011年9月	日本(東北被災地)	1,000枚	第7回 2014年10月	ミャンマー	4,000枚
第4回 2012年3月	中国	2,200枚	累計		19,500枚

寄贈の様子



学校職員への毛布寄贈



毛布を手にする子供たち

毛布の配布先と寄贈枚数

配布先	予定枚数
生涯学習・障害児学校(ヤンゴン、マグウェ)	395
特別支援(視力)学校(ヤンゴン)	142
青少年訓練学校(ヤンゴン)	352
特別支援(視力)学校(サガイン)	80
特別支援(視力)学校(モネヤ)	48
特別支援(視力)学校(パクック)	30
特別支援(視力)学校(メイティラ)	55
特別支援(視力)学校(マンダレイ)	210
特別支援(視力)学校(ミウキナール)	50
孤児院(タンリン)	150
女子孤児院(マリカ)	129
孤児院(キエイクワイン)	108
孤児院(タウッキヤント)	86
視力障害者のためのミャンマーキリスト教協会(ヤンゴン)	165
生活困窮者(ラカイン州)	2,000
合計	4,000